2022
農場解放百年

↑
「お問い合わせ」欄に
感想文を書き込めます

百年記念事業の
全体がみられます
↓

有島武郎

私からのお願い

解放宣言文の感想を募集します

明治から大正にかけて、狩太村と称されていた当時のニセコに有島農場がありました。農場主は、小説家の有島武郎でした。1922(大正 12)年に、有島武郎は、全小作人が協力一致して農場を運営することを条件に農場を小作人に無償で解放しました。農場解放にあたって、有島武郎は「解放宣言」を発しています。ニセコ町は、この「解放宣言」に示された「相互扶助」を、まちづくりの基礎に据えています。

農場解放 100 年を機会に有島農場解放宣言文を読み、ニセコ町のまちづくりについて思いを巡らし、感想文を書いてみましょう。
応募作品は、土香る会のホームページにて発表いたします。

- **「農場解放宣言文」（解放記念碑文）は裏面に掲載してあります**
- **感想文の応募方法等については、裏面をご覧ください**
- **主催：土香る会（有島記念館と歩む会）**
- **後援：有島謝恩会、有島記念館、ニセコ町**

裏へ

農場解放記念碑文（ひぶん）

この土地を諸君の頭数（あたまかず）に分割してお譲りするという意味ではありません。諸君が合同してこの土地全体を共有するようにお願いするのです。誰でも少し物を考える力のある人ならすぐ分かることだと思いますが、生産の大本となる自然物即ち空気、水、土地の如き類のものは、人間全体で使うべきもので、或いはその使用の結果が人間全体の役に立つよう仕向けられなければならないもので、一個人の利益ばかりのために、個人によって私有さるべきものではありません。それ故にこの農場も、諸君全体が共有し、この土地に責任を感じ、互いに助け合ってその生産を計るようにと願います。
諸君の将来が、協力一致と相互扶助との観念によって導かれ、現代の不備な制度の中にあっても、それに動かされないだけの堅固な基礎を作り、諸君の正しい精神と生活とが、自然に周囲に働いて、周囲の状況をも変化する結果になるようにと祈ります。

以上は農場主有島武郎氏が大正十一年八月十七日（ママ）この農場を我等に解放した時の告別の言葉の一節である。
刻して記念とする。

大正十一年十一月　狩太共生農団

（注）読みやすくするため、旧字旧かなを新字現代かなづかいにしてあります。
※右の写真は、有島武郎が小作人を前に解放宣言を読み上げた弥照神社（有島地区）
※表の写真は、解放宣言前日に岩内を訪れた時の有島武郎（安達牧場にて）岩内町郷土館よりご提供いただきました

感想文の応募方法

●締め切り：2022 年 7 月 18 日（農場解放宣言した日）
●応募様式：・感想文の様式や長さに制限はありませんので、ご自由に。
・氏名、連絡先（住所、電話、E メール等）ご記入下さい。
・郵送、E メール、FAX、WEB（下記）等でお送りください。
●送付先：土香る会（有島記念館と歩む会）
・住　　所：虻田郡ニセコ町字富士見 31 番地 41（事務局：春日井）
・TEL&FAX　：0136-44-2106（事務局：春日井）
・E メール　：info@tsuchikaoru-kai.org（事務局：梅田）
・ホームページ：https://tsuchikaoru-kai.org/contact
［土香る会＞お問い合わせ］のページでどうぞ